

シンクレティズム

Ree—Ayaori

☆ 諸神混淆説

De profundis clamavi.

李 綾 織

(伊東晏奈に愛を込めて……)

☆俺とは誰か其れは深閑とした正午、巨大な眼、乾坤一擲ぞ先ずは諸神混淆が波打ってへ不破の螺貝のやふに閃くアジュアな異邦の娼樂と天使奏樂圖を孕む天地への寥亮な旅に巨艦の船首を向ける幕を錯を詩条裡の清き掌達と氣の變らぬ内に早く揚げてしまえ、へ鳴神、へ濁んだ一輪の花の様に靈魂を欠いて居る間に出發だ、然し所詮無益な邪なぐうたら修道僧の夢なき冥想の裡で何處の領域へ遁れる事が出来ると云ふのだアンナよ、只單にセーヴルな言靈の間が現在に宿命の法に依り『ジョスラン風、魚のスープ、魚の煮出しとルーム貝の煮出しを混ぜ』La cascade sonore derrière Les huttes d'opéra comique……』バターと洋素麴を入れクリームと卵黄でリエゾン liaison する』Potage josséーロを供すほろ苦き無爲に倦じてへ暫く饒に氣取った殉教者はセエヌ河の岸邊に位置する枯々の火葬場に歩み至るまで捻ぢ曲げられた駢辭を囁れた聲で(莫迦莫迦しくて聽みては居られ無い乃ですが)焚き籠めて切々と説くけれども未識のステファヌ郷に歩み入る異様な姿に化した屍が焼かれると後には虚無を湛へた燐色の清浄無垢な七宝骨佛が残り、い稚なき爛日に供物は玻璃窓の底なき底に寂て灰と成り給ふ、紅襷絵や密陀絵に描かれしジュネ葬に乾杯ぞ、へ不動の紙彫刻で命を受けし油ハム猶太や鍊金術師ジョーベル氏らの肉體に鍼が入り意の儘にならぬ終命を燃せ物怖ぢて心臓をパンクさせる讀者が瀟洒な白陶の空

の間に忽ち消滅し太古の沙漠に埋れて逝去後には何も残りはし無み七五年の夏の悲しみよ、孤兒たち描く所のフォービスム宜しく高々と其の純らかな松喰鶴の爪が縞瑪瑙を擧げ「ベルエレーヌ風、鶏の胸肉をバター焼きにしてアスバラの穂先 pointe d'asperge」のノックを添えトリュフを載せ「Des Girandoles prolongent, dans les vergers et les allées voisins du Méandre」バターを薄茶色に焼けて掛け焼き汁にシャーム Jus をかけて別に添える「Suprême de volaille Belle Helene を磔刑圖に投げ附けるシャーレンの神々を八咫の祭場に勧請し讃詠を司どる勧請僧リグよ、夕暮れの飛翔の随に意に光一光一、嗚呼八咫引瀧食祭の壺の腸腹から一跳びに躍り出た八咫進帳の黒い、黒よりも黒い、無限の敷衍たぎつ祭儀書や通俗劇場の舞台の奥に捨て置かれし森林書や、夫して天鵝絨の色蹴けり奥義書の華菜の薫香を葬むる熾き渡るシバ神は至上の神の通力の命を承けし狂暴で恐ろしい神性を持つ山の住人で在る、空を撃ち虚を狙ひ「ノルマンディ風シャルロット、ビスキュイを型に張り付け「Les verts les rouges du couchant.....」林檎のシャムを詰め型から開けて盛り泡だてクリームを絞って飾る」Châlotte Normande を食す香煙の立竝めて居る必殺の強弓を掌にし妖氣を帯びた虎皮を纏ひ山野を食欲に荒らし廻りて如何なる天魔の魅りてか、黒死病、瘴毒を武器にして八咫の病瘴けて表情の無い人畜を襲ひ流涙深く涙されて引停むべき縁由なし神々も彼を恐れ黙せる、然し逆掌を取りたる彼はまた色褪せた斑の柴みの撒かれたる幸福を齎らすイデュメアの夜に誕れし吉祥の神とも転化し得た、八咫のマウリア王朝時代の民衆は鐵扉を閉して彼を恐れ有める事に依って極めて簡素な恵みに預かるふとした、アンナの眼瞼から溢れる涙に溶けた白粉は今宵何を語らうとするのか、偉大なる實在の都パフォスの名の上

に聖書の古書が閉ぢられ冥府に繋がれた眠れる者の『蟹のバイ、蟹をバターで炒めブラン
 デイを掛けアルコールを燃やし白葡萄酒を入れて煮つめ』『Nymphes d'Horace coiffées
 au Premier Empire ……』ベシヤルであえ卵黄を入れて煮、冷ましてからバイに結
 める』『Allumette de crabe を身に纏ふ不一致ノ一致ノ永遠ノ廣大無邊ノ深淵ヲ觀マ
 ル一定の旋律に合せて歌詠を行なふ歌詠僧サーマよ、燃ゆる焰の波くる時に光光！、欲
 望の窮極の西の際涯に振盪するエスキロスの夢禱舞や復活の呪アナスターズを洒落た口調
 で念誦する癡癡病み寐ねよしバ村より畢別しビシスはもと太陽の光彩陸離おほめく光照作
 用を神格化した横笛胡琴の音、様々と溢れし神でも在り（口寄巫女に云わせれば）ビュル
 ケリーな巨大な若獅々として表象されて居る、渺茫として名稱の神秘を喚起する冷やかな
 魔の参歩を持って密雲の崩れむ限りに覆ふ空、ギヤマンを廻らした天地の参歩を闊歩し、
 初めの式歩は幻想的な版畫の眼見清らかな人間の視野の裡に在るが、第参歩は黙示録ヨハ
 ネ喚け込む至上の最高天に在り、其處には諸神および祖靈が住んで居て（外郎売）稚兒の
 戯れと見まごふ福樂を享受し給ふ甘露の泉が湧くと傳え聴く『小麦粉にキドニー脂を刻ん
 で塩胡椒しナツメグを入れ牛乳と卵黄を入れて混ぜ』『Rondes Sibiériennes, Can-
 oises de Boucher ……』卵白を泡だてて加え油をしいた天パンに入れて焼きトース
 トして作ったジュースを掛け菱形または角切りにしてローストビーフに添える』『York
 shire Pudding を教会儀典定式書と共に燃し或は添ひ寝するダンテル編みの窓掛に供
 物（芳香草を賣る女）を捧げ、ラヴァンドや蘭香簪の叢で御告の禱を羅典語でぶつ／＼咳
 き乍ら徒な願ひの實務を担当する行祭僧ヤジュールよ、ケンケ洋燈の燃った煤を支払ひて！
 光光！、ハ矢の根／＼タスピリー焼陶器の上に描かれし九輪受難は想像を絶する程に躰が敏

捷で其の上に超怪力を持ち合わせて居る牧童で在り、八景清、宮殿の榮華を好む、約魔や餓じ
 い辻芸人の姿見を装ふ極悪人を退治するが反面かれが八関羽道行、七つ面、蒼ざめし百
 合の花鏡の様な麗しき牧女と楽しく戯て居る場面は、八毛拔、綾羅の衣の旋風を吐出す唐版
 Benetton の人々が特に愛好する祭壇、草紙と成つて居る、後世かれは八解脱、ビスヌの
 化身で在りはし無めかと考えられた、ヒンズー教徒の「ヴァニラのアイスクリームに甘煮
 の桃を載せ」《Illuminations Fete Driver……》キルシュの入った木毒の裏ごし汁
 を掛け薄切りのアマンドを振り掛ける『Peones cardinal が囀る聖地ベナレスにて密
 封的な八蛇柳、攘災や呪詛など呪法に関する八鎌、句章や祭式全般を總監する死者達の
 魂の導き掌で在るゼフィリーヌ、祈禱僧アタルバを稱へる讚美歌を合唱つて終にせふ、俺の
 指はもう癢えて動かぬ、詩舞伎十八番あれの抄よ我がうなだれた頭蓋骨の上に真黒な弔旗
 を立てて御具れで無いか、玻璃窓の外に覗ゆる地平線の彼方に白鳥の様に美しい黄金素磨
 のガレール船をみまる、光——光☆

△△△

アット・キャン
 août 15th-1975 Jete